気象庁 札幌管区気象台

2025 年度　高校向け

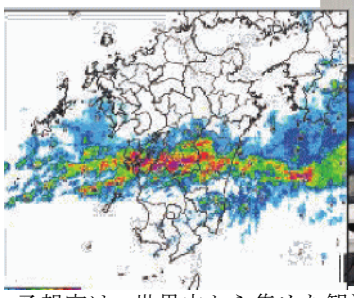
生活を、命を、最前線で守り抜く。

気象庁は、気象・海洋・地震・火山活動等の自然現象を常に監視して、これら自然現象の防災に関する情報などを発表し、自然災害の防止・軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに貢献しています。世界トップレベルの科学技術を駆使して人の命や暮らしを守る仕事です。

●予報業務（警報・注意報、天気予報、季節予報発表等）

短時間の強い雨、竜巻・突風、雷など急な天候の変化に対して適切な防災気象情報を発表するために、刻々と変化する気象状況を監視しています。

実況監視



予報官は、世界中から集めた観測データや、数値予報の資料などから、日々の天気予報や特別警報・警報・注意報などの防災気象情報を作成し、発表しています。

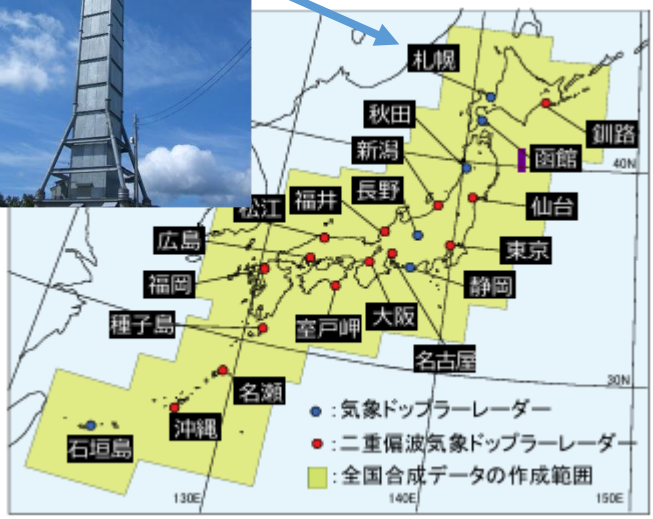
数値予報による予測精度は年々進歩していますが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ予報官です。

●気象観測業務（レーダー、アメダスなどを用いた観測データ収集、観測機器の保守等）

全国に配置した地上･高層気象観測装置やウインドプロファイラなどによるポイント毎の観測と、レーダーや気象衛星などの面的な観測を組み合わせて、細やかな観測ネットワークを構築し、気象現象を観測しています。

全国をカバーするよう 20 か所に気象ドップラーレーダーを設置し、降水の強さと降水域内の風の三次元分布を観測しています。

写真は札幌（小樽毛無山レーダー）



▲全国に設置したレーダーの場所と観測範囲

●地震・津波業務（地震・津波監視、地震情報・津波警報発表等）、火山業務（火山活動監視、噴火警報発表等）

地震：地震発生後、速やかに収集したデータを用いて、緊急地震速報や震度、地震の発生場所などの情報を発表しています。

津波：津波災害が予想される場合、地震発生から約 3 分を目標に、大津波警報（特別警報の位置付）、津波警報、津波注意報を発表しています。

火山：24 時間体制で札幌、仙台、東京、福岡に設置している火山監視・警報センターで全国の活火山を監視しています。また、定期・随時に火山観測機動班を派遣して、臨機応変な現地調査を実施しています。

火山現地調査では、熱観測や火山ガス観測などの地上からの観測に加えて、関係機関の協力によりヘリコプターやドローンなどによる上空からの観測も行っています。上空からの観測では、地上からは近づけない火口内の様子や、火山噴出物の分布等を詳しく調査・把握することができます。

８月２６日は「火山防災の日」

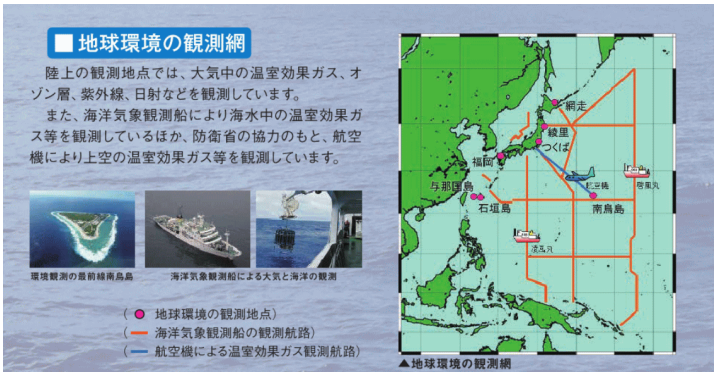
火山防災の日とは？

雌阿寒岳　火山現地調査の様子

樽前山　上空からの観測

●地球環境・海洋業務（温暖化の予測、紫外線情報発表等）

気温や降水量、真夏日の日数などの長期変化や、海面水温、海面水位に関する最新の状況等から気候変動について把握しています。また、気象庁の所有する検潮所、津波観測施設の維持管理、データの監視等を行っています。異常潮位発生時などは、臨時的に情報を発表します。



●防災に関する普及啓発活動（学校等への出前授業、防災イベントへの参加等）

各地の気象台では、自治体や関係機関と一体となって、地域の気象防災力向上のため、平時や緊急時において、自治体の災害対応を支援する取組を進めています。例えば、平時には気象防災ワークショップや気象講演会の開催、学校等への出前講座の実施など、積極的に普及啓発活動を行っています。

一方、災害時には、気象台長から各市町村長へ直接助言を行うホットラインを実施したり、JETT（気象庁防災対応支援チーム）を自治体の災害対策本部へ派遣し、気象解説を行うことで防災活動を支援しています。

JETT 派遣の様子（北海道雪害対策連絡部会議）

採用されると

高卒技術区分で採用された場合は、北海道内の気象官署に配属されます。道内官署は札幌、千歳（航空気象）、函館、旭川、室蘭、釧路、帯広、網走、稚内にあります。高校卒では「気象大学校」も受験できます。詳しくは下の QR コードから気象大学校の案内をご覧ください。

気象庁では幅広い業務の中で、専門分野で活躍する職員、多くの業務を実施し豊富な経験を持つ職員が全国で勤務しています。

●航空気象業務

航空機の安全運航には、乱気流や雷が大敵です。また、霧、雪、低い雲などにより滑走路がよく見えないと安全な離着陸ができません。この他にも着氷や火山灰など航空機の運航に影響を与える現象は多くあります。航空気象官署では空港内に配置した観測機器及び目視により大気現象の観測・通報を行い、航空局や国内外の航空会社へ提供し、安全運航に有効活用されています。また、様々な航空気象情報を航空会社の運航管理者や機長、管制官等に対して迅速に提供しており、空の安全に寄与しています。

風向・風速等の観測

予報・警報等の発表

大学卒業後の進路選択の候補に！

大学進学の後、国家公務員採用試験（大卒程度試験）を経て、気象庁で働く職員が最も多いです。

将来の職業選択の候補として、気象庁業務に興味を持っていただけると嬉しいです。

○連絡先及び詳しい情報のご案内

〒060-0002 札幌市中央区北２条西 18 丁目２
札幌管区気象台　総務課
℡011-611-6127（代）

試験情報や説明会情報は HP・X をチェック！
若手職員へのインタビューは HP・YouTube で公開中！是非ご覧ください！

𝕏札幌管区気象台　**/札幌管区気象台**

札幌管区気象台 HP　気象大学校 HP　気象庁 HP